

幌延町地域振興（観光）計画

「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち
HORONOBE/ほろのべ

～北緯45°のゲートウェイ【関所】を目指して～



平成29年3月

～ 目 次 ～

1. 幌延町	1
(1) 位置・地勢	1
(2) 人口推移	2
(3) 気象	3
(4) 土地	3
2. 計画の概要	4
(1) 計画の背景	4
(2) 計画の位置づけ	6
(3) 計画期間	6
3. 観光の現状と課題	7
(1) 観光の現状	7
(2) 観光における課題	11
4. 計画の基本的な考え方	16
(1) 基本理念	16
(2) 目指す姿	17
(3) 目標の設定	17
5. 基本戦略と主要施策	18
(1) 基本戦略	18
(2) 主要な施策	19
7. 今後の推進体制	27
(1) 計画の検討経緯	27
(2) 今後の推進体制	27
8. おいでよ！ほろのベアイデアコンテスト	28
(1) アイデアコンテストの実施	28

1. 幌延町の特性

(1)位置・地勢

幌延町は、北海道の北部に位置し、北緯 45 度線上の北方圏のほぼ南端にあり、北は豊富町、猿払村、東は浜頓別町、中頓別町、南は中川町、天塩町に接し、西は日本海に面しています。

総面積の約 63%を山林が占めていますが、標高は比較的低く、問寒別地区のイソサヌブシリ山 581m、知駒岳 532m、摺鉢山 472m の他に高い山はなく、全体的に緩い傾斜地となっています。

町は天塩川とその支流の流域に広がっており、広大なサロベツ原野（7,100ha）、問寒別原野（6,000ha）を有しています。平坦地は、湿潤な集積土壌（泥炭地）と普通鉱質土壌からなっていますが、平坦地の約 44.5%を占める泥炭地は、排水不良の湿地帯で強酸性のため農業発展の一つの阻害要因となっています。

河川は、道内三大河川の一つである天塩川をはじめとして、その支流であるサロベツ川、問寒別川など約 70 の河川があります。また、海岸は日本海に面し、延長は 18.2km ありますが、浅海砂礫地帯となっており、港湾施設はありませんが、小樽から稚内まで約 380km の海岸を走る道路、通称「オロロンライン」が通る美しい海岸線は特徴的な景観を形成しています。



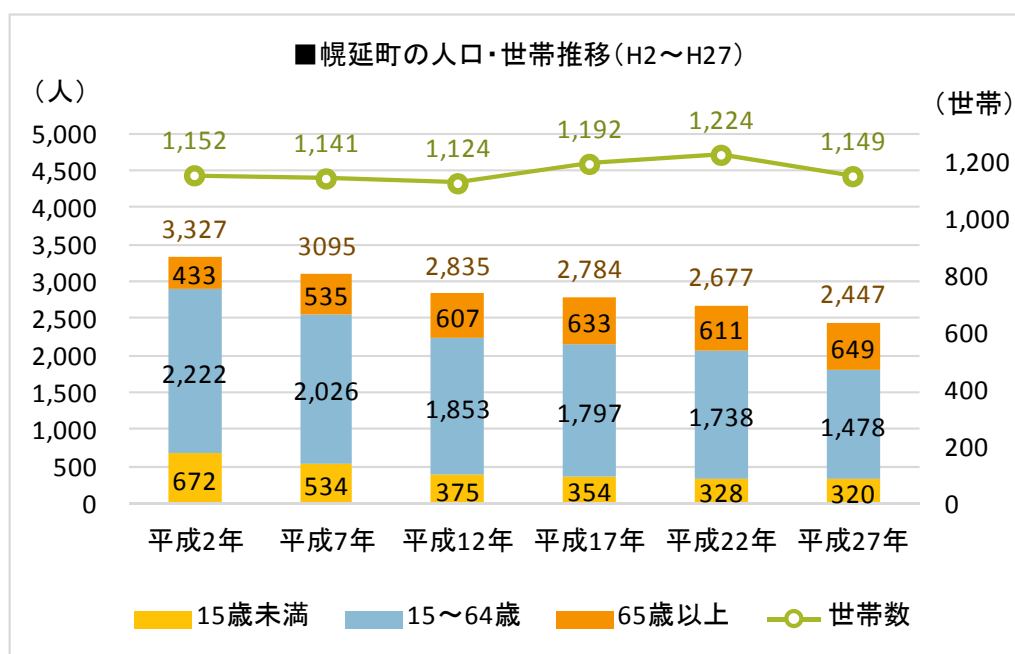
図表 1. 幌延町の位置図

(2)人口推移

幌延町の平成27年国勢調査人口は2,447人、世帯数1,138世帯、平成22年国勢調査と比べると、人口は230人(8.6%)、世帯数は86世帯(7.0%)減少しています。最も人口が多かったのは昭和35年の7,438人で、その後、高度経済成長期の大都市への人口流出や離農者の増加、国鉄羽幌線の廃止などにより人口の減少は続き、過疎化が進みました。

年齢階層別に見ると、年少人口(15歳未満)は、平成2年の672人(構成比20.2%)が平成27年には320人(構成比13.1%)となり、352人(52.4%)減少しました。また、生産年齢人口においても、平成2年の2,222人(構成比66.8%)が平成27年には1,478人(構成比60.4%)となり、744人(33.5%)減少しています。

高齢者人口(65歳以上)は、平成2年の433人(構成比13.0%)が平成27年には649人(構成比26.5%)となり、216人(50.0%)増加し、合わせて構成比についても13.5%上昇しており、幌延町においても少子・高齢化が進行していることが分かります。



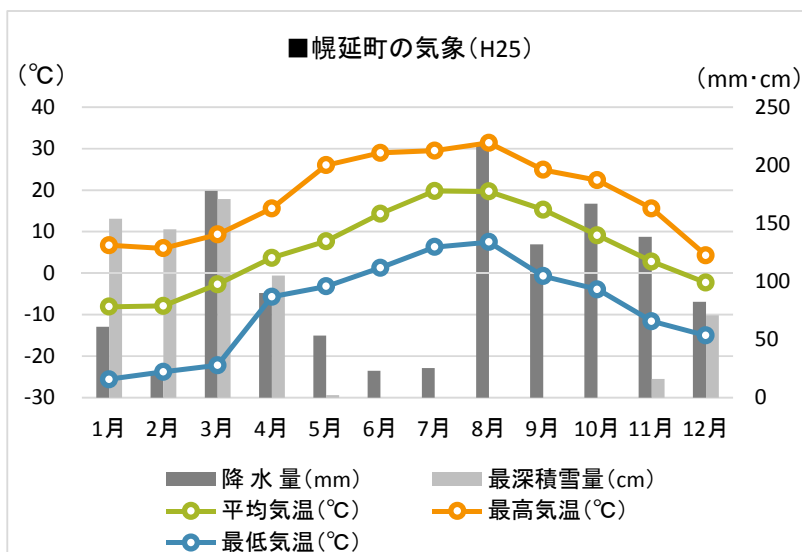
図表 2. 幌延町の人口・世帯の推移グラフ(国勢調査データ)

国が定めた「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成27年10月に「幌延町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(以下、「人口ビジョン」)」を策定しており、その人口ビジョンの中で、国立社会保障・人口問題研究所が示した2040年の推計人口1,693人を3つの基本視点及び5つの重点項目に沿って各種施策を展開することにより、2,241人に留めることを目標に定めています。

5つの重要項目のひとつ「まちへ新しいひとの流れをつくる」の実現に向け、観光による地域振興を推進することにより、交流人口の拡大、定住人口の増加が期待されます。

(3) 気象

幌延町の気候は、平成元年に最高気温 35℃を記録しましたが、平成 25 年の年平均気温は 6.0℃と冷涼な気候が特徴で、最暖月（7 月）の平均気温は 19.8℃となっています。冬は北西の季節風が強く乾燥寒冷で、根雪期間は 11 月下旬から 4 月上旬までとなっており、積雪量は 1m 内外で、最深積雪は平成 16 年の 1.8m、最低気温は昭和 60 年に -35℃を記録しています。



図表 3. 幌延町の気象グラフ（出展：北進マメダスの気象データ）

(4) 土地

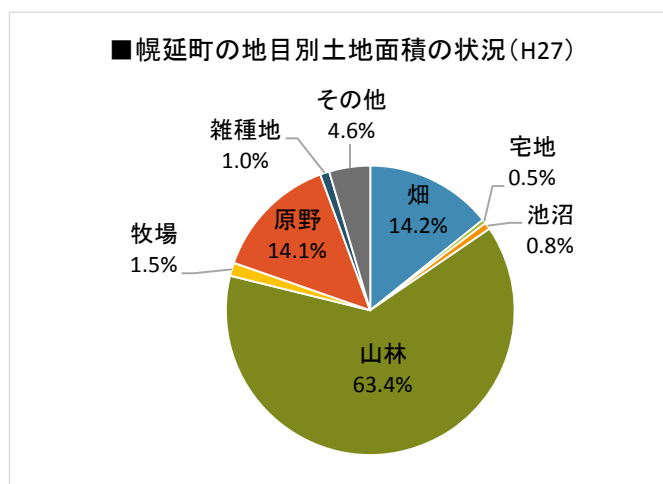
幌延町の総面積は、57,410ha であり、そのうち山林が 36,384ha（63.4%）、農用地（畑＋牧場）が 9,021ha（15.7%）、原野が 8,071ha（14.1%）を占めています。その他、宅地 263ha、池沼 444ha、雑種地 594ha、その他が 2,633ha となっております。山林のうち、北大天塩研究林と国有林が約 8 割を占めており、また、下沼・浜里地区の約 3,700ha が利尻礼文サロベツ国立公園の指定を受けたエリアになります。

図表 4. 幌延町の地目別面積 (ha)

	総面積	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他
平成27年	57,410	8,174	263	444	36,384	847	8,071	594	2,633

注1) 総面積は、平成27年10月1日現在「全国都道府県市区町村面積調」(国土地理院)による

注2) 地目別面積は、平成27年1月1日現在「固定資産税の価格等の概要調書」によるため、総面積と一致しない場合がある



図表 5：幌延町の地目別土地面積のグラフ

2. 計画の概要

(1) 計画の背景

幌延町では、平成9年に幌延町観光振興計画「幌延“わくわくフロンティアN45°”構想」を策定し、観光振興の取組みを進めています。

<計画の構成>

- 第1章 幌延町の現況特性と観光・交流事業推進の意義
- 第2章 幌延町をめぐる観光動向と開発イメージの検討
- 第3章 幌延町の観光事業推進の基本コンセプトと全体構想
- 第4章 全体構想に基づく重点事業推進計画
- 第5章 推進体制の確立方策

<基本コンセプト>

北緯45°の風が吹く北のメルヘンランドほろのべ

<事業化のテーマ>

北の原野とトナカイ観光のまちづくり

<まちづくりデザインのコンセプト>

北欧風のメルヘンチックなまちなみ



図表 6. 幌延町観光振興計画の概要

近年の観光を取り巻く環境は大きく変化しており、経済低迷による企業の財務体制の弱体化、国民の価値観やライフスタイルの変化等により、会社の慰安旅行などの団体旅行が減少し、家族や友人・知人等と出かける個人・家族型の旅行が増加しています。また、訪日外国人観光客が急増しており、2015年の訪日外国人旅行者数は前年比47.1%増の1,973万7千人となり、過去最高を記録しています。「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」では、この数値を2020年に4,000万人、2030年には6,000万人に増やすことを目標に掲げています。

幌延町は、平成22年4月に留萌管内から宗谷管内に再編され、同年に幌富バイパスが開通しました。また、現在、天塩大橋の架け替え工事や幌富バイパスの道路整備が進んでおり、今後の整備により、宗谷管内を訪れる観光客等の移動経路が、大きく変わることが想定されます。



図表 7. バイパス道路整備図

平成 24 年度における幌延町の年間観光入込客数は約 12 万人となっており、平成 31 年度（2019 年度）までに年間観光入込客数を 13 万人（第 5 次幌延町総合計画）、また、トナカイ観光牧場入場者数を 5 万人（幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略）、鉄道系観光に係る年間入込客数を 500 人とすることを目指しています。

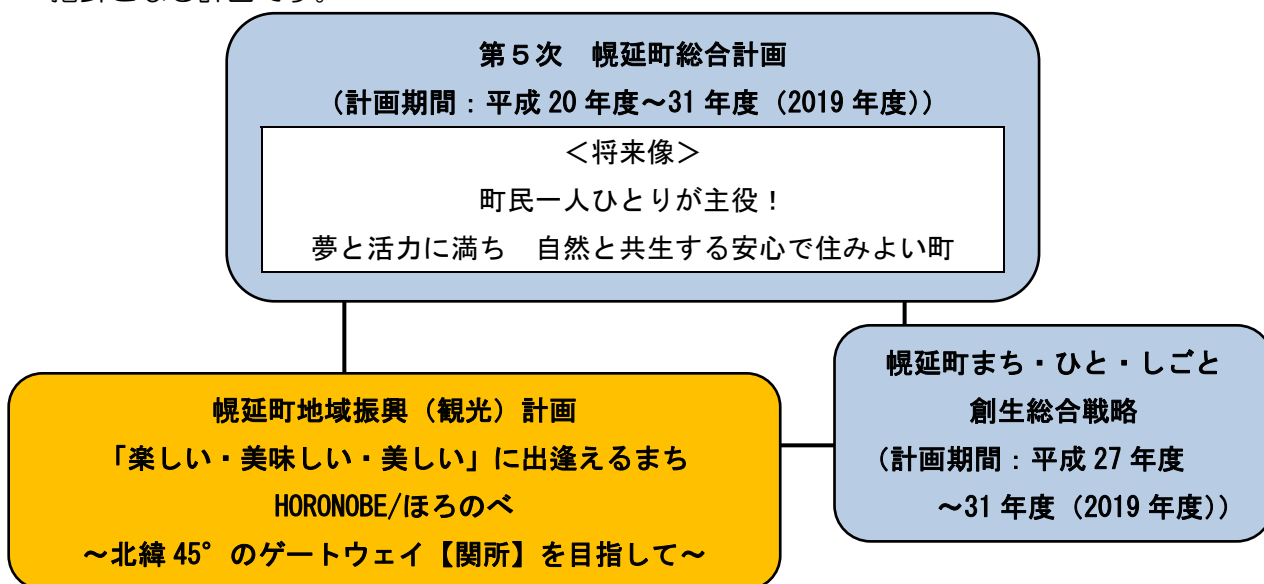
第 5 次幌延町総合計画 後期基本計画（～平成 31 年度（2019 年度））			
主要 施策	1. 観光資源の発掘と広域観光の推進 ①観光資源の発掘（体験・滞在観光の開発、新たな資源の発掘） ②観光施設の整備（町有施設・国立公園施設の管理運営、新たな施設の可能性検討） ③広域観光の推進（広域観光ルートづくりや情報発信等の共同事業） 2. 観光 PR とイベントの充実 ①観光 PR の充実（パンフ・ポスターの作成、マスコミや町 HP を活用） ②観光イベントの充実（既存イベントの充実、町や各団体の行事をイベントと位置付け情報発信） 3. 観光振興の体制づくり （観光協会の活動・組織を支援、商工会や農協、地元企業等と連携した体制づくり、人材の育成、サービスの向上、ポスピタリティ運動）		
	主な 取り組み	■トナカイ観光牧場・花壇管理事業 ■ほろのべ名林公園まつり事業 ■稚内・利尻・礼文・サロベツ観光振興協議会事業 ■トナカイホワイトフェスタ事業 ■観光協会育成事業 ■幌延・豊富広域観光促進事業	
目標 指標	指標	平成 24 年度 実績	平成 31 年度 (2019 年度) 目標
	観光資源に恵まれたまちと思う人の割合	13.1%	18%
	観光入込客数	121,782 人	130,000 人
	トナカイ観光牧場入場者数	48,244 人	50,000 人

幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 27 年度～平成 31 年度 (2019 年度))	
基本目標	まちへ新しい人の流れをつくる
基本的方向	イ. 観光資源の発掘 ・新たな発想による情報発信や施設運営策の検討 ・鉄道系資産の有効活用 ・町への新たな導線を確立するため、観光・防災・レジャー等の複合施設整備に向けた構想の具体化
重要業績評価指標 ※平成 31 年度までに	・トナカイ観光牧場入場者数 50,000 人 /年 ・鉄道系観光客数 500 人/年

第 5 次幌延町総合計画（以下、「総合計画」）や幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」）の目標を達成するためには、変化する社会情勢の中、多様な観光ニーズに対応し、幌延町らしい振興計画を策定する必要があります。

(2)計画の位置づけ

本計画は総合計画の下位に位置づけられるもので、幌延町の観光振興による地域振興施策の指針となる計画です。



図表8. 各種計画の位置づけフロー

(3)計画期間

総合計画の見直しスケジュールに合わせて、本計画も見直しを行います。

年度		計画名		
		総合計画	総合戦略	地域振興 (観光)計画
H29	2017	平成20年 ～平成31年 (2019年)	平成20年 ～平成31年 (2019年)	平成29年～
H30	2018			
H31	2019	第6次 幌延町総合計画 (予定)	前期	総合計画を踏 まえ見直し
H32	2020			
H33	2021			
H34	2022			
H35	2023			
H36	2024			
H37	2025			総合計画を踏 まえ見直し
H38	2026			
H39	2027			
H40	2028			
H41	2029			後期

図表9. 計画の見直しスケジュール

3. 観光の現状と課題

(1)観光の現状

幌延町は、フランスのボルドーやイタリアのミラノとほぼ同緯度の北緯45度線上に位置し、広大で豊かな自然に恵まれたまちです。

主な観光資源としては、「トナカイ観光牧場」、「青いケシ（ブルーポピー）」、「幌延ビジターセンター（利尻礼文サロベツ国立公園）」、「金田心象書道美術館」などがある他、まちの総面積の6割以上を占める北大天塩研究林をはじめとした森林資源や町内に点在する水資源（湧水）など、自然資源も豊富に存在しています。



トナカイ観光牧場



ヒマラヤ原産の青いケシ（ブルーポピー）



幌延ビジターセンター



金田心象書道美術館

主な食資源としては、まちの基幹産業である酪農業から生産される「生乳」やトナカイ、社会福祉法人で飼育・加工されている「合鴨製品」、豊かな自然の恵みである「山菜」などがあげられます。

イベントは「名林公園まつり」の他、「おもしろ科学館」、「トナカイホワイトフェスタ」などが開催され、町内外問わず多くの方を楽しませています。



毎年多くの方が参加する名林公園まつり

平成9年にトナカイ観光牧場のマスコットキャラクター「ホロベー」、平成23年にはブルーポピーの妖精「ブルピー」がまちのマスコットキャラクターとして誕生し、各種イベント等において幌延町のPRを行っております。また、平成27年4月に幌延町出身のTHE TON-UP MOTORS※のギタリスト井上仁志氏が観光大使に就任し、音楽活動を通じて、幌延町を盛り上げPRしています。※現在、THE TON-UP MOTORSのバンド活動は休止中

**トナカイ観光牧場マスコットキャラクター
「ホロベー」**

平成9年に誕生。トナカイの里 幌延町をPRするため、トナカイ観光牧場に舞い降りました。
大人しく、とってもやさしい性格です。



**ブルーポピーのマスコットキャラクター
「ブルピー」**

平成23年に公募により誕生。ブルーポピーを全国にPRするために生まれた妖精。優しくおっとりとした性格で花畑の中をフワフワ飛び回っています。



まちには、全国的に有名な秘境駅が6駅あり、さらに北海道ならではのラッセル車も走行しています。このような幌延町ならではの鉄道系資源を活用したイベントの実施（秘境駅フェスタ、秘境駅ウォーキングラリー、ラッセル撮影会等）、グッズ開発などを行っています。

また、今まで活用が進んでいなかったトナカイの角を活用し、加工技術を持った町民の方の協力のもと、角細工（アクセサリー）の商品化を行っています。

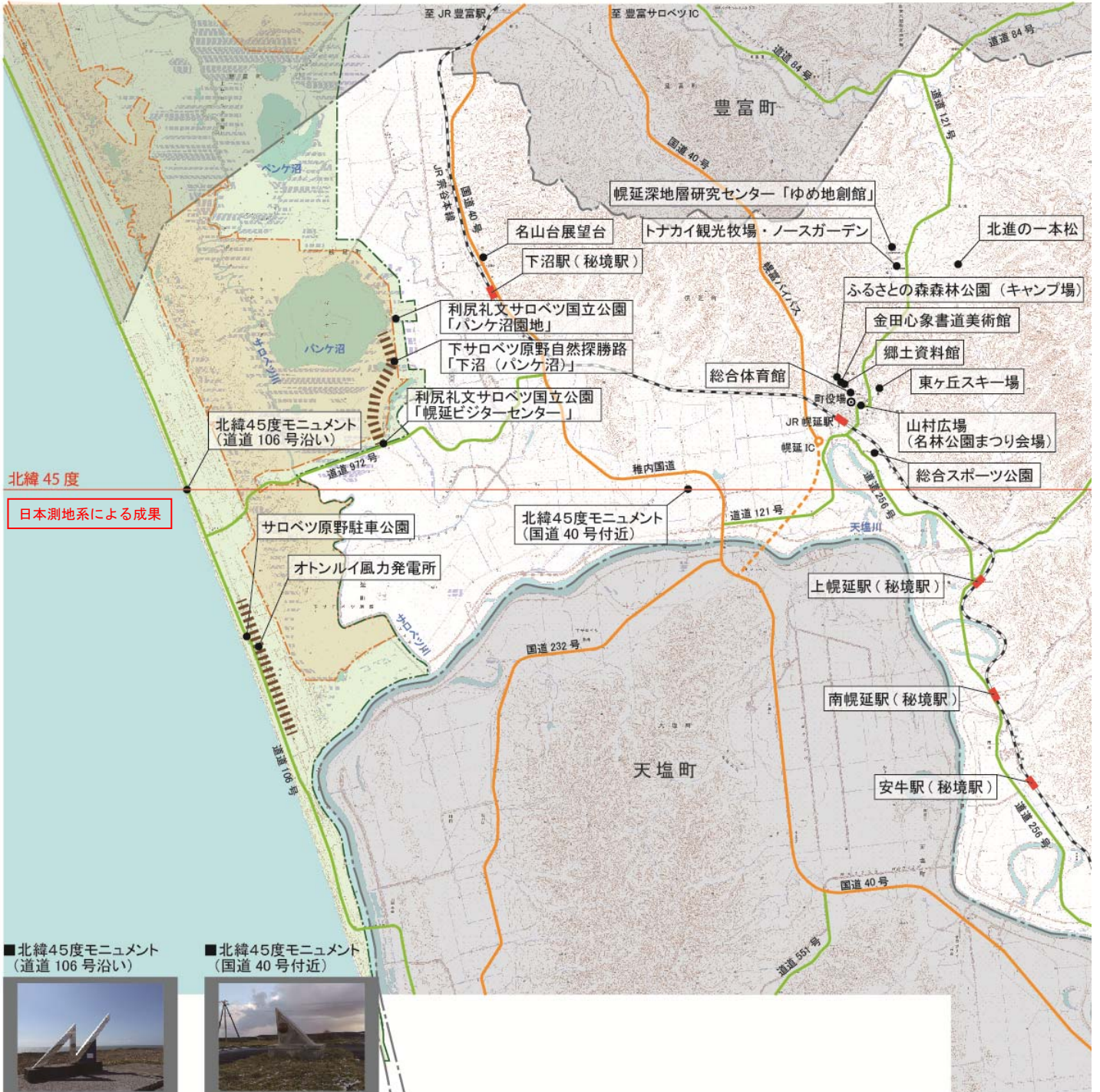


井上観光大使と糠南駅（秘境駅）



「幸せをもたらす」と言われているトナカイの角細工（アクセサリー）

幌延町観光マップ



北緯 45 度
日本測地系による成果

■北緯45度モニュメント (道道106号沿い)



■北緯45度モニュメント (国道40号付近)



■サロベツ原野駐車公園



■名山台展望台



■オトンレイ風力発電所



■下サロベツ原野自然探勝路「下沼(パンケ沼)」



■利尻礼文サロベツ国立公園「パンケ沼園地」



■利尻礼文サロベツ国立公園「幌延ビジターセンター」



■幌延深地層研究センター「ゆめ地創館」



■トナカイ観光牧場
■ノースガーデン (ブルーホビー)





■ふるさとの森森林公園 (キャンプ場)



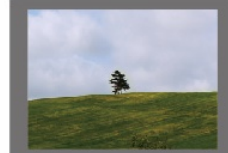
■郷土資料館



■山村広場 (名林公園まつり会場)



■北進の一本松



■金田心象書道美術館



■東ヶ丘スキー場



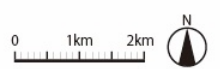
■総合スポーツ公園



■秘境駅 (上幌延駅)



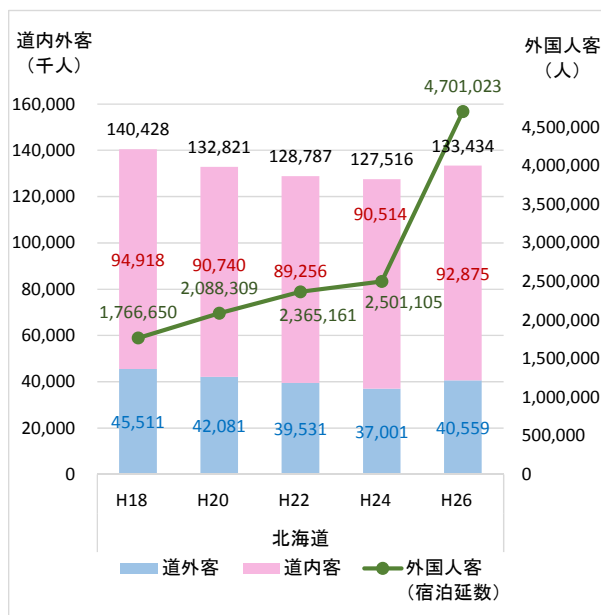
凡例	
	JR
	国道
	道道
	町境界線
【サロベツ国立公園】	
	特別地域
	特別保護地域



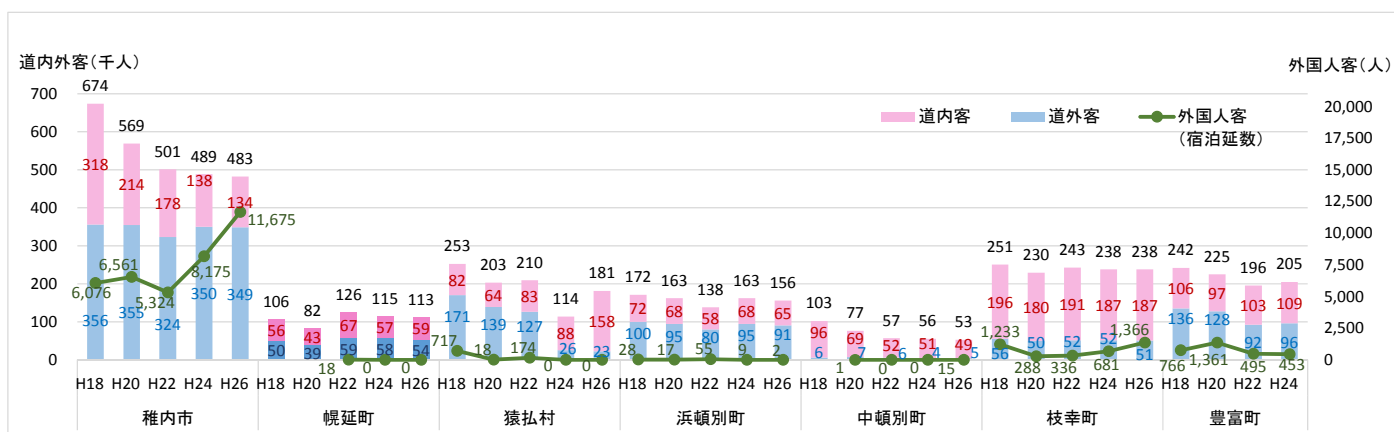
(2)観光における課題

幌延町の平成26年度における観光入込客数（延べ数）は約12万人となっており、稚内市の4分の1程度で、宗谷管内では中頓別町の次に少ない状況です。なお、平成20年から平成22年を比べると増加していますが、平成22年以降は減少しており、道内・道外旅行者の割合は約半々となっています。

近年、急増している外国人旅行者（外国人宿泊数）については、北海道や稚内市は増加しているものの、幌延町は0人となっています。

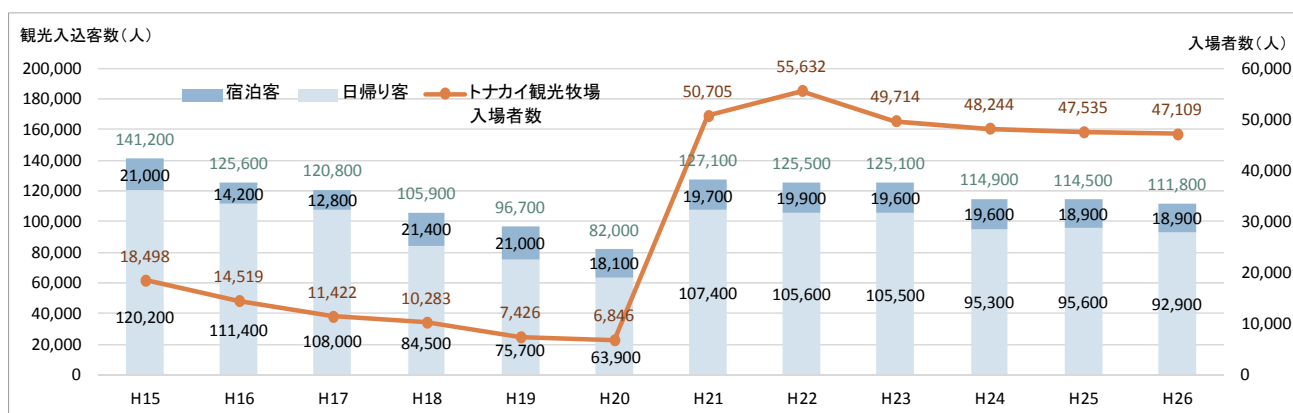


図表 10. 北海道における入込客数の推移



図表 11. 北海道と幌延町及び近隣市町村の宿泊者数の推移

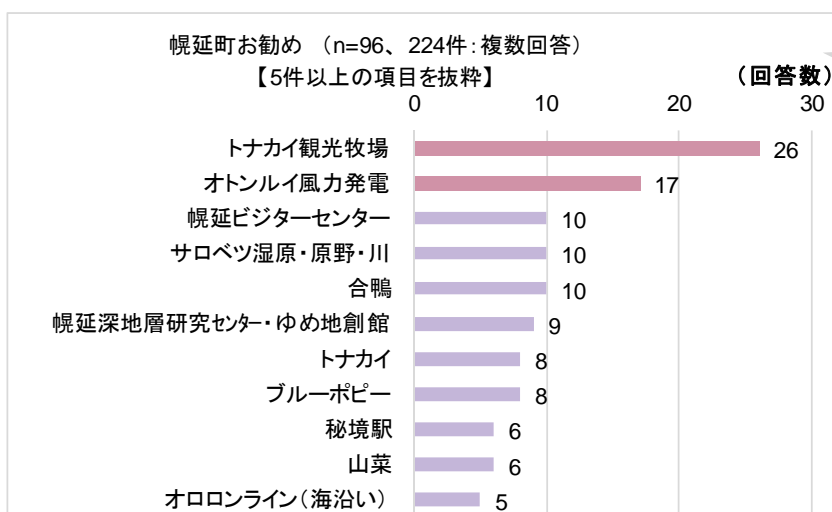
主な観光資源である「トナカイ観光牧場」は、平成21年に入場料を無料化し、平成22年の入場者数が過去最高の55,632人を記録しましたが、その後は減少傾向にあります。



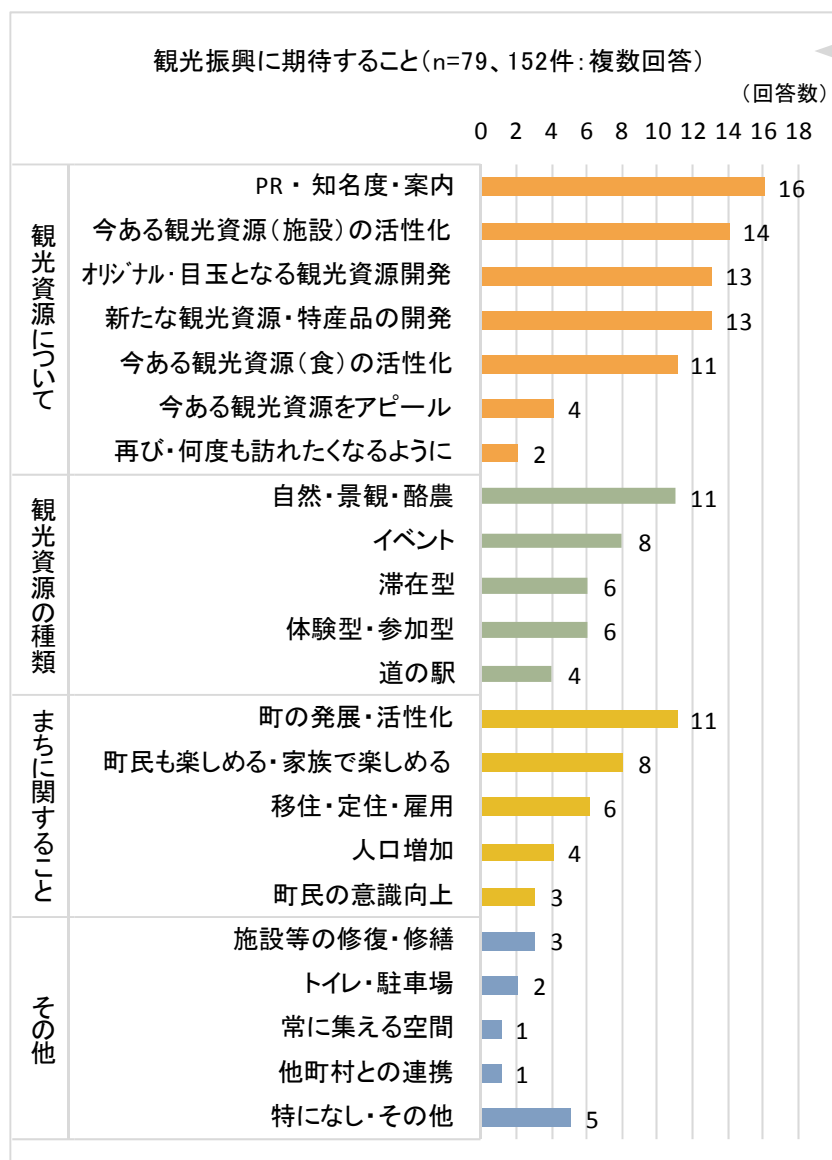
図表 12. 観光入込客数（宿泊・日帰り）とトナカイ観光牧場入場者数の推移

本計画策定にあたり実施した町民アンケートの結果では、まちのお勧めの場所として「トナカイ観光牧場」や「オトンルイ風力発電所」があげられました。また、今後の観光に期待することについては、「PRの強化等による認知度向上」、「既存観光施設の活性化」、「新たな資源・特産品の開発」などがあげられました。（次頁参照）

<町民へのアンケート調査結果>



お勧めの場所等は主に、
「トナカイ観光牧場」
「オトンルイ風力発電所」
「サロベツ湿原等の自然」



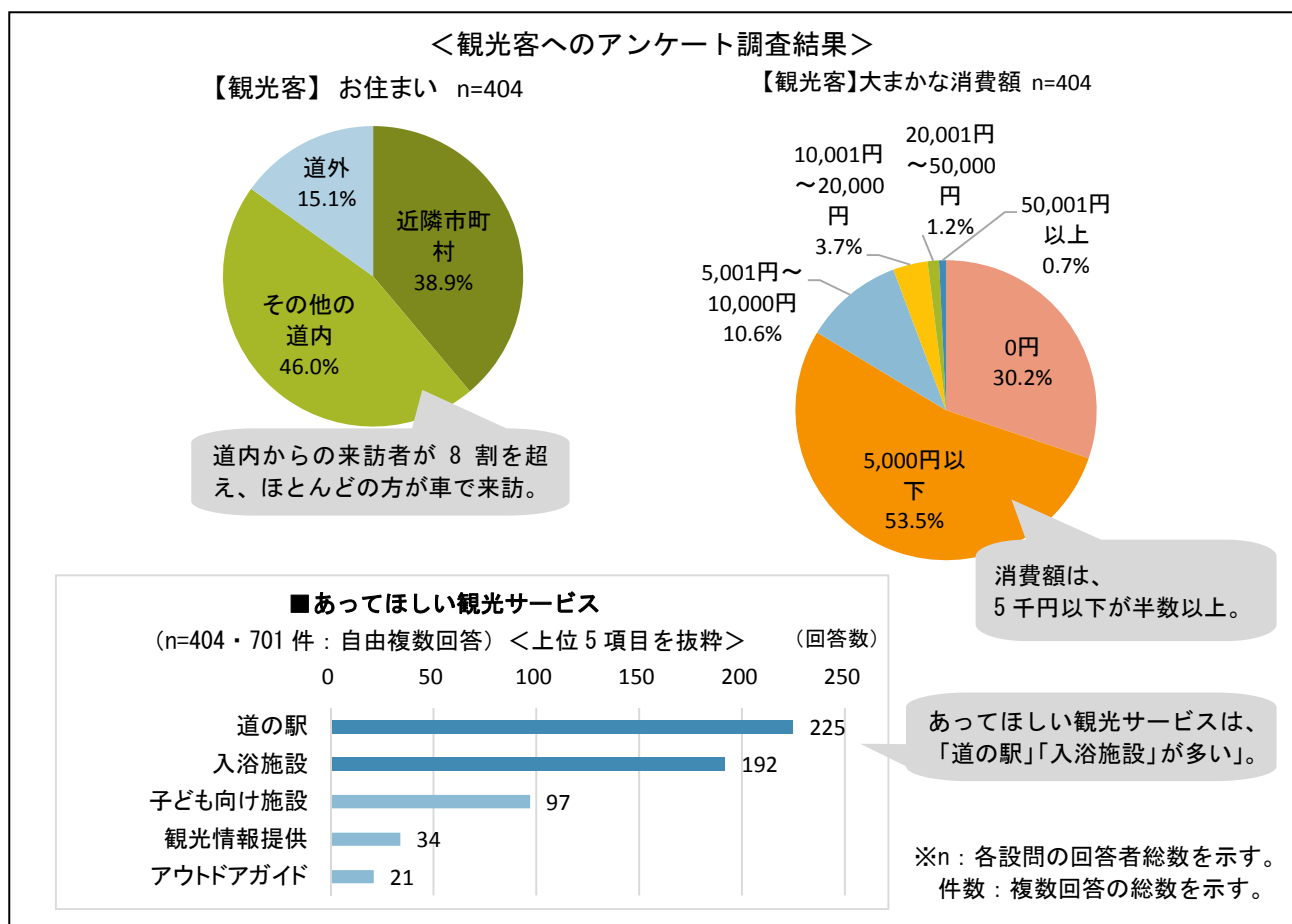
今後観光に期待することは、
「PR や知名度向上」
「既存観光施設の活性化」
「目玉となる観光の開発」
「新たな資源・特産の開発」

※n: 各設問の回答者総数を示す。
件数: 複数回答の総数を示す。

図表 13. 幌延町民アンケート調査結果

幌延町に訪れている観光客の移動経路やニーズを把握するため、名林公園まつり会場やトナカイ観光牧場、幌延ビジターセンターにおいてアンケート調査を実施し、約 400 名の方に回答いただきました。調査の結果から、来訪者の消費額は、「0 円」が約 30%、「5,000 円以下」が約 53%と非常に少ないことが分かりました。

また、幌延町にあって欲しい観光サービスの上位 5 項目は、「道の駅」が最も多く、次に「入浴施設」「子ども向け施設」「観光情報提供」「アウトドアガイド」の順となり、道の駅と入浴施設が観光客から求められていることが分かりました。

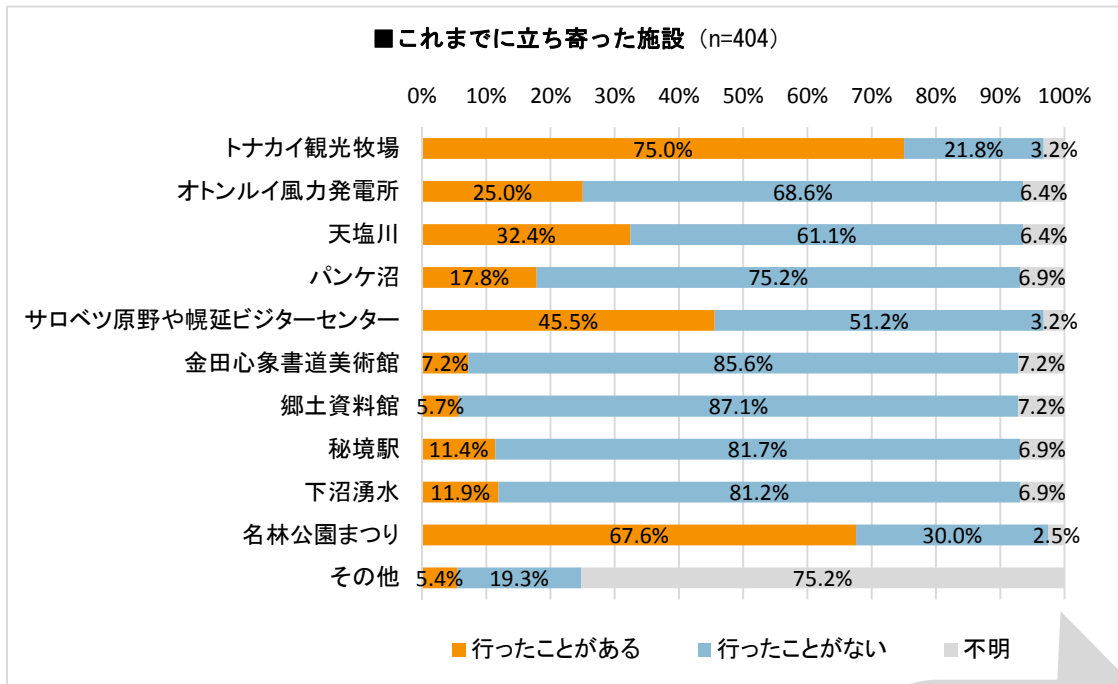


図表 14. 幌延町来訪者アンケート調査結果

幌延町に訪れている観光客の約 75%は「トナカイ観光牧場」に立ち寄っており、次に「名林公園まつり」が約 67%、「サロベツ原野やサロベツ湿原センター」が約 45%となっており、10 人のうち約 8 人がトナカイ観光牧場を訪れ、約 5 人がサロベツ原野、幌延ビジターセンターに訪れていることが分かりました。立ち寄った施設の満足度については、「名林公園まつり」・「下沼湧水」・「オトンルイ風力発電所」が高い結果となりました。

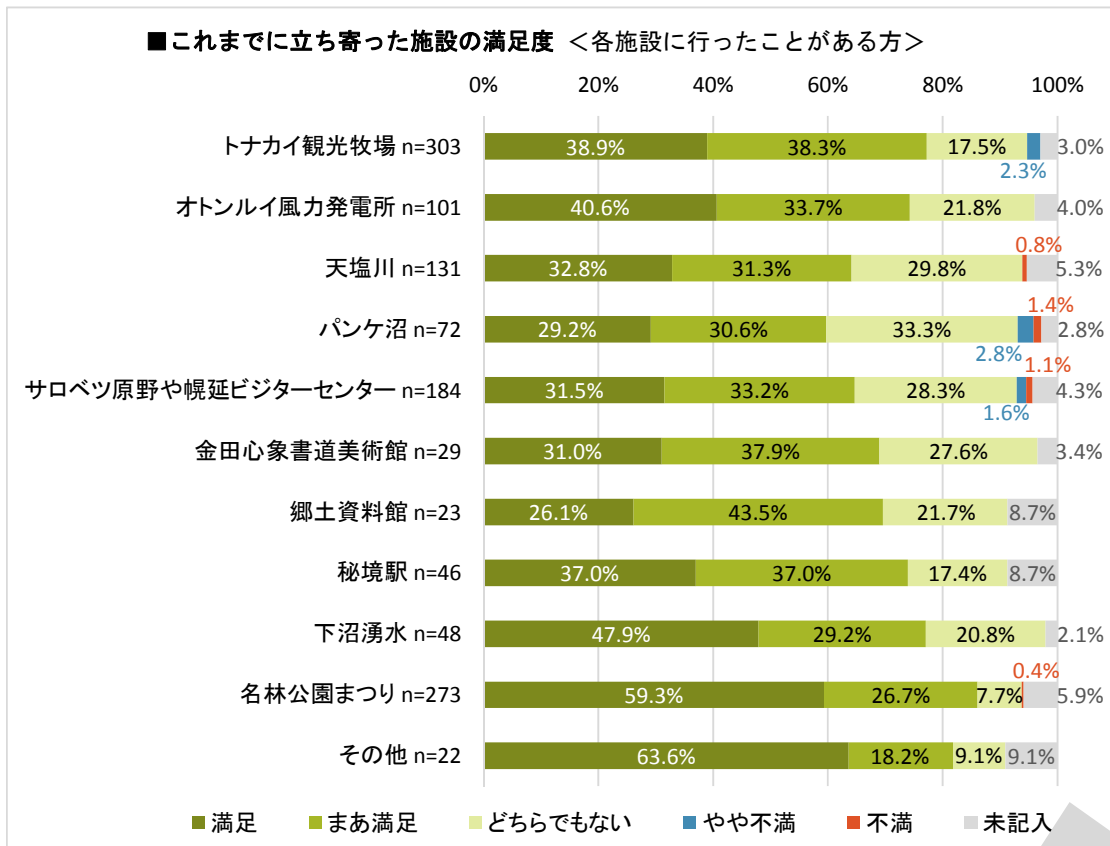
また、課題としては、魅力となり得る地域資源が点在しているものの、観光客に提供できるコンテンツとしての磨き上げが不足しており、幌延町の魅力を対外的に発信する力が弱いことが分かりました。今後、観光によるまちおこしを継続的に取組んでいくためには、まち一体となった推進体制の構築が不可欠です。

<観光客へのアンケート調査結果>



※n：設問の回答者総数を示す。

7割以上の方が「トナカイ観光牧場」に来訪。



※n：各施設の回答者総数を示す。

立ち寄った方の満足度は、「名林公園まつり」、「下沼湧水」、「オトンレイ風力発電所」が高い。

4. 計画の基本的な考え方

(1) 基本理念

幌延町地域振興（観光）計画の基本理念として、次の5項目を掲げ、基本戦略に基づき、主要施策を展開します。

① 観光振興を通じて“まちが潤い・元気”になる

観光による経済効果が観光に関係する施設等だけでなく、まち全体に波及し、まちの潤い・元気の創出に繋がる観光振興を展開します。

② 幌延にしかない貴重な体験・経験を提供し、“幌延ファン”を増やす

「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」の幌延にしかない体験・経験を提供し、幌延のファンを国内外に増やし、リピーターや移住・定住に繋がる観光まちおこしを展開します。

③ 立地を活かし、宗谷地域を訪れる観光客の“交流点”となる

上川・留萌・宗谷の境界に位置する幌延町の立地特性を活かし、宗谷地域を訪れる国内外観光客等の交通・交流における要処となることを目指します。

④ エネルギーを生産・研究するまちとして、“観光・環境・学術の共存”を目指す

オトンレイ風力発電所や北大天塩研究林、幌延深地層研究センター、幌延地圏環境研究所などによる、エネルギーの活用・研究と学びが連携した最先端のまちとして、貴重な自然資源やクリーンな環境を保全しながら、観光振興を図ります。

⑤ “町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する

町民みんなが得意分野で活躍できる観光まちおこしを行うことで、人口減少が進むわがまちにおいても、魅力的なまちづくりを実現します。また、ホスピタリティ（おもてなし）の強化を図るため、人財の確保・育成を図ります。

(2) 目指す姿

幌延町が目指す姿として、次のようにメイン・サブテーマを定めました。

メイン	「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち HORONOBE/ほろのべ
-----	--

観光客が幌延町で体験できることを「楽しい」「美味しい」「美しい」という形容詞で表現し、さらに、まちへのインバウンドの可能性も踏まえ「HORONOBE」とローマ字を使用しています。

サブテーマ	～北緯 45° のゲートウェイ【関所】を目指して～
-------	---------------------------

北緯 45 度線に位置するまちの立地特性を活かし、宗谷地域における交通・交流の重要拠点を目指すことを「関所」という言葉により表現しています。

(3) 目標の設定

本計画は、総合計画の下位に位置付けられることから、総合計画 及び 総合戦略の観光振興に関する数値の達成を目標とします。

なお、各計画の目標は、次のように定められています。

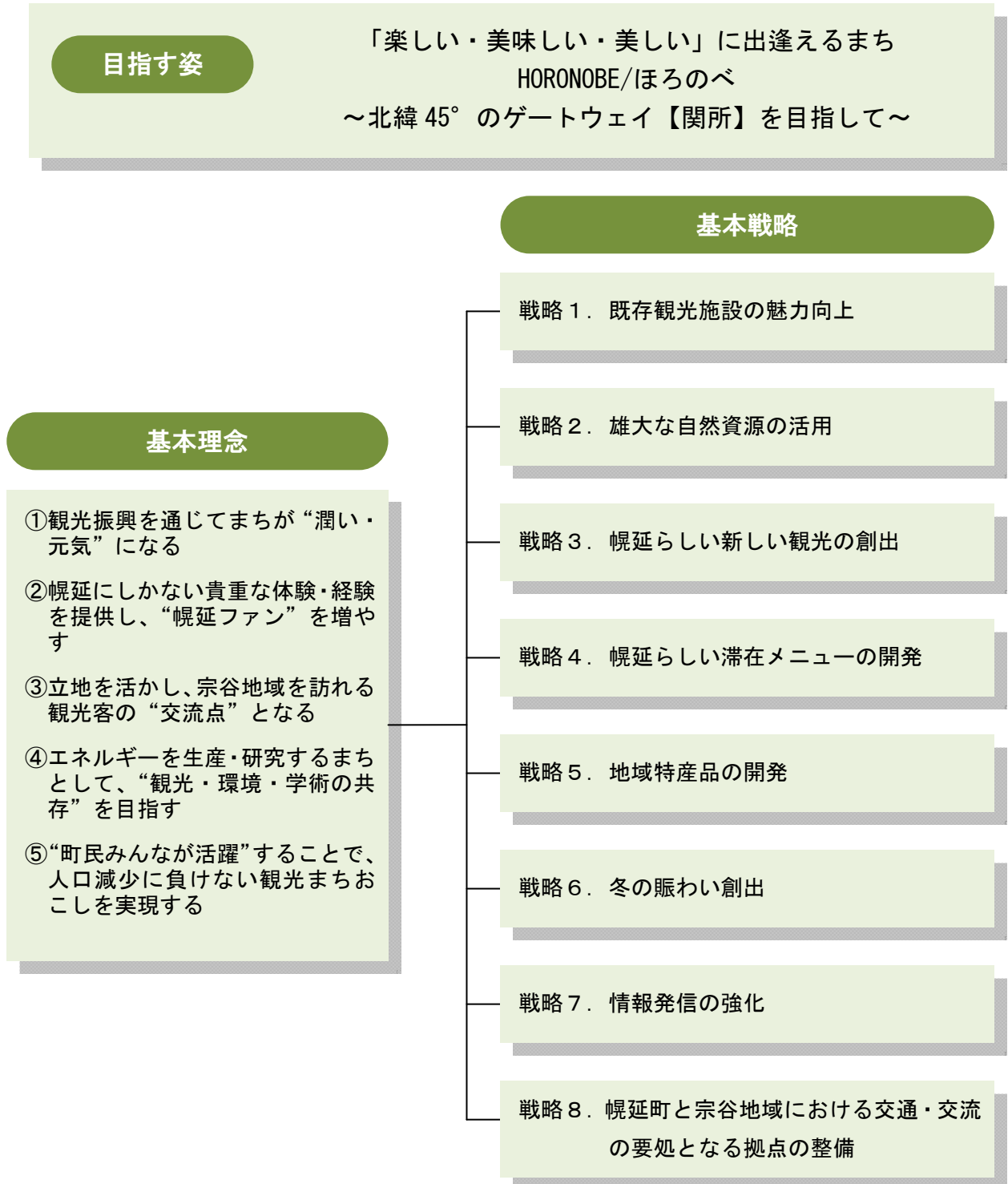
図表 16. 第 5 次幌延町総合計画及び幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標

記載されている計画		指標	平成 24 年度 実績	平成 31 年度 (2019 年度) 目標
総合計画	総合戦略			
●		観光資源に恵まれたまちと 思う人の割合	13.1%	18%
●	●	観光入り込み客数	121,782 人	130,000 人
●	●	トナカイ観光牧場入場者数	48,244 人	50,000 人
	●	鉄道系観光客数	—	500 人

5. 基本戦略と主要施策

(1)基本戦略

5つの基本理念を踏まえ、観光振興・観光まちおこしを実現するため、8つの基本戦略のもと、施策を展開します。



図表 17. 目指す姿・基本理念・戦略の体系図

(2) 主要な施策

戦略 1. 既存観光施設の魅力向上

幌延町には、トナカイ観光牧場やノースガーデン、幌延ビジターセンター、オトンルイ風力発電所など、観光の拠点となる既存施設があり、それらをさらに魅力的にすることで、幌延町の観光振興を図ります。



■トナカイ観光牧場

約 60 頭のトナカイを飼育するトナカイ観光牧場は、年間約 5 万人の方が訪れ、幌延町の観光拠点となっています。町民も、観光客も幌延町のイメージとして「トナカイ」を強く認識しており、幌延町観光の顔として位置付けられる施設です。

戦略 1-1 観光客受入環境整備の推進

平成 28 年 4 月にレストランがリニューアルし、地元産合鴨製品を使ったメニューの提供がはじまりました。施設全体の魅力向上を目指し、トナカイをより魅力的に見せる工夫や施設自体の受入環境整備を進めます。

戦略 1-2 トナカイのイメージを活かした演出（サンタ・トナカイの里、漫画との連携等）

トナカイのイメージを強化するために、サンタ・トナカイの里としての PR や大人気漫画に登場するトナカイのキャラクターとの連携など、トナカイを活かした演出を模索します。

■ノースガーデン

トナカイ観光牧場に併設されているノースガーデンには、青いケシ（ブルーポーピー）をはじめとした貴重な高山植物が植えられ、トナカイ観光牧場と合わせて、季節に応じた色とりどりの花卉を気軽に観賞することができます。

戦略 1-3 美しく花を見せる花壇の整備

青いケシ（ブルーポーピー）をはじめとした特有の花卉が楽しめるように、花壇の整備・管理や園内の花の植栽の他、植栽されている花を紹介する案内サインの設置など、花を美しく見せ、楽しめる環境整備を進めます。

■幌延ビジターセンター及びサロベツ原野エリア

幌延ビジターセンターは、展示を通して楽しみながらサロベツ湿原の貴重な動植物について学ぶことができる他、施設周辺には展望台や下沼（パンケ沼）までの木道が整備され、名台山展望台からはサロベツ原野と利尻富士が一望できます。

戦略 1-4 自然を体感できるメニューの開発と提供

幌延ビジターセンターはサロベツ原野の拠点、さらには自然体験の拠点となるよう、周辺の自然資源を活用し、体験プログラム・メニューの開発と提供を図ります。

戦略 1-5 木道等の環境整備

幌延ビジターセンター周辺に整備されている木道や名山台展望台は老朽化が進んでおり、補修や修景が必要となっている箇所があります。一部は改善されているものの、老朽化が顕著な箇所等については、安全・快適に楽しめるように環境整備を推進します。

■オトンレイ風力発電所

道道稚内天塩線の沿道に 28 基の風車が一行に立ち並ぶ「オトンレイ風力発電所」は、天気の良い日には、風車とともに利尻富士が一望でき、幌延ならではの風景を楽しむことができます。

戦略 1-6 クリーンエネルギーや風車を体感できるメニューの開発

幌延町特有の風景を楽しむだけでなく、クリーンエネルギーや風車の大きさなどを体感・学習できるメニューづくりや環境整備を進めます。

戦略 2. 雄大な自然資源の活用

国立公園やラムサール条約にも指定されているサロベツ原野や北大天塩研究林、イトウが生息する天塩川など、雄大な自然資源は幌延町の特徴です。これらの自然資源を観光客に提供できるコンテンツとして磨き上げ、自然体験観光の推進を図ります。



戦略 2-1 北大天塩研究林を活用した教育型プログラムの開発と提供

広大な北大天塩研究林には、テシオソウ（オゼソウ）やテシオコザクラなどの地域特有の植物が自生している他、倒木更新などの自然のサイクルや生態系が体感できる環境があることから、これらの環境を活用し、観光客向け教育型プログラムの開発・提供を目指します。

戦略 2-2 四季に応じた体験メニューの開発（山菜、鮭の遡上、バードウォッチング等）

山林が 6 割以上を占め、自然豊かな幌延町では、四季に応じて様々な自然の恵みを楽しむことができます。山菜採りや鮭の遡上観賞、バードウォッチング、スノートレッキング、スノーモービル、イグルーづくり、釣りなど、「今だけ」しかない自然を活用した体験メニューの開発を進めます。

また、※映像コンテンツ等による自然資源の新たな活用方法を模索します。

※自然に投影するプロジェクションマッピングなど

戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出

近年、旅行形態が団体から家族・個人型へと変わりつつあり、観光客のニーズも多様化しています。その中、幌延町特有の自然環境や鉄道資源等を活用し、「鉄道」「徒歩」「自転車」など、エコでスローなモビリティ（移動）に優しいまちとして、新たな幌延らしい観光の創出を目指します。



戦略3-1 秘境駅等の鉄道資源を活用した観光振興

全国的にも有名な秘境駅が6駅もある他、冬期には北海道ならではのラッセル車が走行するなど、鉄道資源が豊富なまちと言えます。現在、秘境駅ウォーキングラリーや秘境駅フェスタなどの取組みを展開していますが、鉄道を目的とした旅行の誘客を目指し、鉄道資源を活用した観光振興を図ります。

戦略3-2 サイクリングやカヌー、フィッシング、徒歩等の※クワイエットスポーツによる観光振興

北の大河「天塩川」や交通量が少なく、美しい風景が広がる町道や農道を活用し、カヌーや釣り、サイクリングなど、自然の中で静けさを感じながら楽しむ※クワイエットスポーツによる観光振興を図ります。

※エンジンなどの動力に頼らず自然の中で、騒ぎたてることなく穏やかに楽しむスポーツ

戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発

観光における経済効果を高めるためには、滞在時間を長くすることが必須となります。幌延町には宿泊施設が数軒ありますが、宿泊を促すような魅力的な滞在を観光客に提供するために、キャンプ場や農家民泊による滞在メニューの開発などについて、関係者をまじえて検討します。



戦略4-1 豊かな自然を身近に感じるキャンプ場の利活用

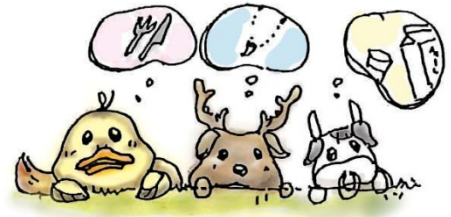
まちなかからも近く、周辺が自然に囲まれている「ふるさとの森 森林公園キャンプ場」の特性を活かし、幌延らしいキャンプ場の利活用方法を検討します。

戦略4-2 酪農等を体験する農家民泊の実施

幌延らしい滞在・体験型観光として、酪農などの1次産業を体験できる農家民泊や地域産業を体験できる滞在メニューについて、関係者をまじえて検討します。

戦略5. 地域特産品の開発

地元産の生乳やトナカイ、合鴨、湧水など、幌延町ならではの食材や資源があるものの、まだ十分に活かしきれていません。幌延町ならではの食材・資源を活かし、新たなまちの特産品開発を進めます。



戦略5-1 酪農の6次産業化や特産品開発

幌延町では69戸（H28.11月現在）が生乳を生産しており、町内にある雪印メグミルク(株) 幌延工場で、地域の生乳を使いバターなどの加工品を製造しています。しかし、幌延産生乳の商品開発・ブランド化には至っておらず、酪農の町ほろのべとして、6次産業化を検討するとともに牛乳豆腐やチーズなど酪農地帯ならではの商品の開発を検討します。

戦略5-2 トナカイや合鴨の生産強化及び新たな商品の開発

幌延町ではトナカイの他、合鴨を食肉用として生産していますが、どちらも生産量に限りがあります。新たな商品の開発にあたって、トナカイ・合鴨の生産強化とあわせ、新たな商品の開発を検討します。

戦略5-3 地域特性を活かした農業の展開

酪農業で発生する家畜ふん尿、林業における林地残材、乳製品製造過程において発生する脱水污泥等を現在利活用調査を進めているバイオガスプラントの導入にあわせ、エネルギーの活用方法について検討することにより、食意識の高まりに沿った野菜や果実栽培の実現を図ります。

戦略5-4 湧水の活用

幌延町には中間寒地区、下沼地区や幌延市街などに、きれいで美味しい水が湧き出る「湧水」ポイントがあります。道北地域において、湧水があるまちは希少で、きれいな水の町としての認知度を高めるとともに、湧水の活用の検討を進めます。さらに、災害等緊急時における飲用水確保の観点からも、町内の水源調査を進めます。

戦略5-5 外部連携による食資源の活用

平成29年1月に締結した北大天塩研究林との包括連携協定のもと、幌延町産ナラ材によるワイン樽の試験製造を進めることにより、ワイン樽を活用した地域振興策を検討します。また、ワイン醸造を視野に入れた試験研究についても検討を進めます。

戦略6. 冬の賑わい創出

幌延町では、「ホワイトフェスタ」以外に雪や寒さを楽しむ冬のイベントが少ないことから、官民が連携し、冬の賑わいを創出する取り組みを検討します。



戦略 6-1 アイスキャンドル等による官民連携・協働イベントの開催

名林公園などまちなかの公園施設等を活用し、アイスキャンドル等を灯すキャンドルナイトや雪像づくり、イルミネーションなど通じて、冬の賑わいを創出する官民連携・協働によるイベントを検討します。

戦略 7. 情報発信の強化

これまでに幌延町では、ホームページやパンフレットによる観光情報の発信、ご当地キャラクターや観光大使によるPRを実施してきましたが、まだまだまちの認知度は高いとは言えません。幌延町の認知度を向上し、訪れてみたくなるまちとしてPRするため、情報発信の強化に努めます。



戦略 7-1 動画等による情報発信の強化

インターネットやスマートフォンなどの普及により、誰でも手軽に情報発信が可能となりました。さらに、臨場感ある情報発信に動画は欠かせません。幌延町のPRにおいても、動画やSNSなどの新たな手法を活用し、情報発信の強化に努めます。

戦略 7-2 観光大使による情報発信の強化

幌延町では、町出身の「THE TON-UP MOTORS ギタリスト※」井上仁志氏が観光大使となり、ソロデビュー曲「ストロベリーフィールド」のPV撮影や町内イベントへの参加などにより、幌延町の魅力を発信しています。今後も、観光大使を通し、さらに多くの方に幌延町の魅力が届くように、情報発信の強化を図ります。

※現在、THE TON-UP MOTORS のバンド活動は休止中

戦略 7-3 町内飲食店の情報発信の強化

観光において「食」は欠かせないコンテンツのひとつです。幌延町には、地元ならではの飲食店などがありますが、ホームページなどによる情報発信が不足しています。町内飲食店の他、宿泊施設の情報発信策について、関係者をまじえて検討することにより、観光客の利用を促進します。

また、観光案内所やガイド機能の強化・充実についてもあわせて検討します。

戦略 7-4 ホスピタリティの充実

情報発信の強化にあわせ、これらを担う機関や人材の確保・育成を図るため、観光案内所の整備検討、また、研修や講習会などの開催により、知識や技術修得の機会の提供を図ります。

戦略 8. 幌延町と宗谷地域における交通・交流の要処となる拠点の整備

幌延町は宗谷管内の南西部に位置し、天塩大橋の架け替えやバイパスの道路整備等により、現状よりさらに宗谷を訪れる人が行き交う場所となることが想定されます。このような立地特性を活かし、宗谷地域を訪れる国内外観光客等の交通・交流における要処となることを目指します。

戦略 8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点

旅行者の「拠点」となり、さらに「まちの顔」となるためには、旅行者だけではなく、町民の利用も重要です。町民も集い、旅行者と町民、町民同士の交流の場となる拠点づくりを進めます。

戦略 8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点

観光における経済効果を広くまちに波及させるためにも、「まちの顔」となる拠点においては、幌延町を広く紹介するインフォメーション機能の他、地域の特産品を紹介・販売し、まちのブランドを高め、まちの活性化に繋がる拠点を目指します。

戦略 8-3 道や川など多様な移動手段の拠点

天塩大橋やバイパスの整備を踏まえ、幌延市街地や宗谷地域へと繋ぐ要処となる「道」と「川」を活用した複合的な拠点づくりを目指します。また、整備にあたっては防災拠点としての機能についても検討する他、近隣市町村はもちろんシーニックバイウェイなどを活用した広域連携についても模索します。



目指す姿

「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち
HORONOBE/ほろのべ
～北緯45°のゲートウェイ【関所】を目指して～

基本理念

- ①観光振興を通じてまちが“潤い・元気”になる
- ②幌延にしかない貴重な体験・経験を提供し、“幌延ファン”を増やす
- ③立地を活かし、宗谷地域を訪れる観光客の“交流点”となる
- ④エネルギーを生産・研究するまちとして、“観光・環境・学術の共存”を目指す
- ⑤“町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する

基本戦略

戦略1. 既存観光施設の魅力向上

戦略2. 雄大な自然資源の活用

戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出

戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発

戦略5. 地域特産品の開発

戦略6. 冬の賑わい創出

戦略7. 情報発信の強化

戦略8. 幌延町と宗谷地域における交流・交通の要処となる拠点の整備

主要な施策

トナカイ
観光牧場

戦略1-1 観光客受入環境整備の推進

戦略1-2 トナカイのイメージを活かした演出

ノースガーデン

戦略1-3 美しく花を見せる花壇の整備

幌延ビジターセ
ンター及びサロ
ベツ原野エリア

戦略1-4 自然を体感できるメニューの開発と提供

戦略1-5 木道等の環境整備

ホルイ風力発電所

戦略1-6 クリーンエネルギーや風車を体感できるメニューの開発

戦略2-1 北大天塩研究林を活用した教育型プログラムの開発と提供

戦略2-2 四季に応じた体験メニューの開発（山菜、鮭の遡上、バードウォッチング等）

戦略3-1 秘境駅等の鉄道資源を活用した観光振興

戦略3-2 サイクリングやカヌー、フィッシング、徒歩等のクワイエットスポーツによる観光振興

戦略4-1 豊かな自然を身近に感じるキャンプ場の利活用

戦略4-2 酪農等を体験する農家民泊の実施

戦略5-1 酪農の6次産業化や特産品開発

戦略5-2 トナカイや合鴨の生産強化及び新たな商品の開発

戦略5-3 地域特性を活かした農業の展開

戦略5-4 湧水の活用

戦略5-5 外部連携による食資源の活用

戦略6-1 アイスキャンドル等による官民連携・協働イベントの開催

戦略7-1 動画等による情報発信の強化

戦略7-2 観光大使による情報発信の強化

戦略7-3 町内飲食店の情報発信の強化

戦略7-4 ホスピタリティの充実

戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点

戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点

戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点

7. 今後の推進体制

(1) 計画の検討経緯

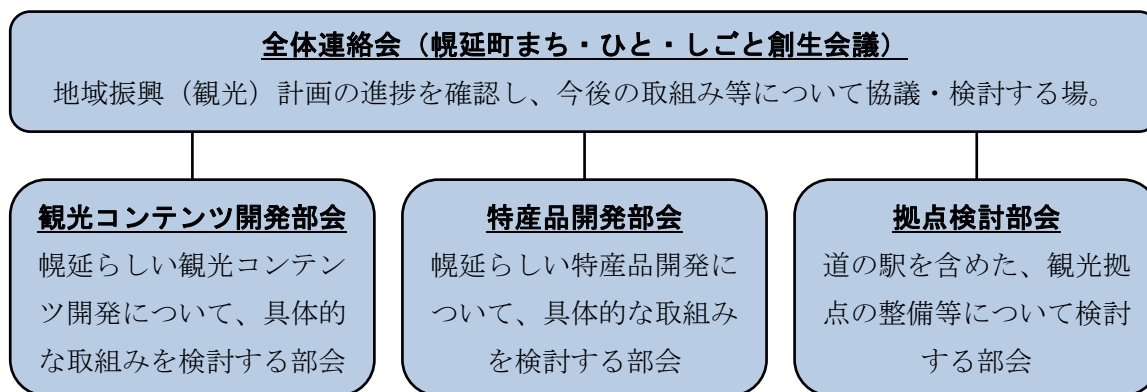
計画の策定にあたっては、『幌延町まち・ひと・しごと創生会議「幌延町地域振興（観光）計画」検討会』を設置し、内容検討や観光資源調査を行いました。また、町民の意見を広く取り入れるため検討ワークショップの開催、さらに、幌延町の観光に関する現状や観光客のニーズ、町民の意見等を把握するための各種アンケート調査、小・中・高校生を対象としたアイデアコンテストを実施し、計画策定の参考としています。

図表 18. 本計画策定に関わる調査・検討

項目	概要	実績
幌延町地域振興（観光）計画」検討会	観光関係者や公募の他、産官学金労言議による検討会を開催	委員として 22 名が委嘱され、全 5 回の検討会を開催した。
検討ワークショップ	特産品開発や拠点づくり、まちづくりの 3 つのテーマで検討	延べ 73 人が参加し、検討ワークショップを全 3 回開催した。
観光資源調査	夏期・秋期・冬期の観光資源について関係者や町民等と調査	延べ 35 人が参加し、夏・秋・冬全 3 回の調査を実施した。
おいでよ！ほろのベアイデアコンテスト	幌延町に住む小学生、中学生、高校生を対象にアイデア募集	全 9 作品の応募があり、グランプリ、準グランプリ等を選出した。
町民アンケート調査	観光に関する町民の意識等を把握するためのアンケートを実施	調査票 103 票を回収し、町民の意識等について分析した。
旅行者アンケート調査	旅行者のニーズ等を把握するため観光客にアンケートを実施	調査票 404 票を回収し、旅行者のニーズ等について分析した。
まちづくり講演会	地域活性化と観光に関する講演会を開催	商店街活性化や道の駅・景観の専門家を招聘し、講演会を開催した。

(2) 今後の推進体制

本計画の基本理念に掲げた「“町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する」ためには、観光に係る組織や団体の他、商工業者、農業者、町民、行政等、幅広い主体がそれぞれの役割に応じて連携・協働し、まちの総力をあげて、本計画を推進する必要があります。そのことから、次の推進体制を設け、計画を推進します。



図表 19. 今後の推進体制図

8. おいでよ！ほろのペアイデアコンテスト

(1) アイデアコンテストの実施

幌延に住む子ども達が考える、観光振興に関するアイデア募集するため、「おいでよ！ほろのペアイデアコンテスト」を実施しました。

図表 18. コンテスト実施概要

応募資格	幌延町在住の小学生・中学生・高校生
応募内容	イラスト、作文、レポートなど
応募状況	9作品

「幌延町地域振興（観光）計画」検討会において入賞作品の審査を実施し、応募9作品の中からグランプリ、準グランプリを各1作品、ブルーピー賞を2作品選出しました。

子ども達が考えたアイデアも参考とし、具体的な観光振興の取組みを展開します。



図表 20. コンテストのチラシ

図表 21. 入賞したアイデア一覧

賞	アイデアの内容	応募者属性
グランプリ	サンタクロースが乗ったソリをトナカイに引かせて、町を走らせる。	小学5年生 男子
準グランプリ	幌延町で有名な「トナカイ」をさらに宣伝し、観光牧場を広げる。また、他では見られない「ブルーポピー」で、ブルーポピー畑をつくり、宣伝する。	中学1年生 女子
ブルーピー賞	利尻富士が美しく見える風景の良い場所で、合鴨や幌延産の野菜を使ったメニューが食べられる「カモカフェ」を開設する。	小学3年生 女子
ブルーピー賞	トナカイ観光牧場に「サンタさんポスト」を設置し、手紙をくれた子ども達に、クリスマスの日にはサンタさんからの手紙を届ける。	小学3年生 女子
入賞	<ul style="list-style-type: none"> ・トラクターばんばの開催やトナカイのえさやり、牛の乳しぼり体験 ・牛の世話や乳しぼり、乳製品づくりなどの酪農体験ができる施設 ・読書が楽しくなるATMのような読書通帳 ・自然が多く、人が優しい幌延には遊ぶところも沢山ある ・子どもからお年寄りまで楽しめる複合的な公園 	

